

科目ナンバー	INR-2-008-k			科目名	国際移民論		
教員名	鈴木 鉄忠			開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
概要	国際移民論では、「なぜ人は移動するか」「どのように人は定着するのか」「何が人の移動と定着を規制したり、促進したりするのか」という問いをめぐり、様々な議論が行われてきました。この授業ではくひとの移動と「壁」／「橋」をテーマに据えます。「壁」には、規制、制限、分離、排除といったイメージがあり、他方で「橋」には、出会い、交流、対話、連帯、共生といった意味が含まれます。国境を越えた人の移動と定着、それを制限するさまざまな「壁」があると同時に、人々をつなぐ「橋」をめぐる理論と現実を検討していきます。 授業の前半部では、国際移民をめぐる基本的な定義と論点、そして国境を越えたひとの移動を説明する代表的な理論(プッシュ・プル論、歴史構造論、移民システム論・移民ネットワーク論、国家のゲート論)を学習します。 授業の後半部では、グローバルに起きている国際移民をめぐる「壁」と「橋」の現状を海外および国内の地域に焦点を据えて検討します。また、日本社会における国際移民現象(“内なる国際化／グローバル化”)も取り上げ、とくに在住外国人(在日コリアン、インドシナ定住難民、日系中南米人)を取り巻く現実を検討します。						
到達目標	この授業では、次の3つを到達目標とします。 ①国際移民論に関する基本的な定義、視点、論点を説明できるようになること ②世界や日本国内の事例を通じて、国境を移動する人々の「合理性」と「歴史性」を理解すること ③ひとの移動を規制する制度の「政治性」と「歴史性」を理解すること						
「共愛12の力」との対応							
識見	自律する力			コミュニケーション力		問題に対応する力	
共生のための知識	○	自己を理解する力	○	伝え合う力	○	分析し、思考する力	○
共生のための態度	○	自己を抑制する力		協働する力	○	構想し、実行する力	○
グローバル・マインド	○	主体性	○	関係を構築する力		実践的スキル	
教授法及び課題のフィードバック方法	講義形式とアクティブラーニングを組み合わせた授業を行います。具体的には次のように授業を進め、提示した課題へのフィードバックを行います。 ・複数のコメントペーパーや課題の提出、挙手による発言に対して、授業中あるいは次回授業においてリプライします。 ・授業外課題、授業中の映像資料、配布資料に基づく課題について、グループディスカッションを行います。全体で意見と質疑応答を共有し、授業の最後あるいは次回授業において、グループワークに対するコメントと講評を行います。						
アクティブラーニング	○	サービスラーニング		課題解決型学修			
受講条件 前提科目	授業中に提示される課題への取り組みや予習復習のための学習があるので、授業内容に積極的に取り組んでください。						
アセスメントポリシー及び評価方法	評価方法は以下の得点配分で行い、最終評価は総合的に判断します。 期末課題レポート 50% 参加点：授業中の質疑応答や議論における発言、授業課題への取り組みを含めた参加の「質」 50%						
教材	購入が必要なテキストはとくにありません。授業時の資料(レジュメもしくはパワーポイントスライド)、予習復習のための資料を適宜配布します。						
	授業への理解を深めるために、以下の副読本を参考にしてください。授業のなかでも適宜参照します。 国際移民をめぐる定義、理論、論点については、以下を参照。 S.カーズルズ／M.J.ミラー、『国際移民の時代 第4版』(関根政美／関根薫訳)、名古屋大学出版会、2011年 竹沢尚一郎ほか『移住・移民の世界地図』丸善出版、2011年 樽本英樹、『よくわかる国際社会学』ミネルヴァ書房、2009年 石井香世子(編著)、『国際社会学入門』ナカニシヤ出版、2017年 内藤正典、『外国人労働者・移民・難民ってだれのこと?』集英社、2019年 ひとの移動をめぐる「壁」と「橋」に関しては、以下を参照。 アレクサンドラ・ノヴォスロスほか『フォト・ドキュメント 世界を分断する「壁」』原書房、2017年 アレクサンドラ・ノヴォスロスほか『フォト・ドキュメント 世界の統合と分断の「橋」』原書房、2018年 A.グレーダー、『島 よくある物語』(畔上司訳)、飛鳥新社、2015年						

参考図書	<p>日本社会における“内なる国際化／グローバル化”については、以下を参照 小井戸彰宏／上林千恵子「特集「日本社会と国際移民——受入れ論争30年後の現実」によせて」『社会学評論』68(4)、2018年 移民政策学会設立10周年記念論集刊行委員会編、『移民政策のフロンティア』明石書店、2018年 日本移民学会、『日本人と海外移住』明石書店、2018年 田中宏、『在日外国人 第三版』岩波新書、2013年 浅川晃広『知っておきたい入管法—増える外国人と共生できるか』平凡社新書、2019年 望月優大、『ふたつの日本—「移民国家」の建前と現実』講談社現代新書、2019年</p> <p>日本の地域社会における“内なる国際化／グローバル化”については、以下を参照 西舘崇／大嶋果織／本堂晴生、『共愛学園前橋国際大学ブックレットX 群馬で学ぶ多文化共生』上毛新聞社、2019年 新原道信(編著)、『うごきの場に居合わせる』中央大学出版部、2016年 梶田孝道ほか、『顔の见えない定住化』名古屋大学出版会、2005年</p>		
------	--	--	--

内容・スケジュール			
1週目			
授業学修内容	【イントロダクション 授業概要説明】 ・なぜ、どのように人は移動するのか？ 何が人の移動と定着を促進したり規制したりするのか？		
授業外学修内容	国際移民の定義について、国際移住機関(IOM)や国際労働機関(ILO)などの定義をウェブサイトなどで調べる	時間数	2
2週目			
授業学修内容	【移民・難民の定義】 ・「移民」「難民」とは誰のことか？ 国連機関の定義、学術的な論点を学習する		
授業外学修内容	国際移民に関する最近の新聞記事を選び、要約と考察をまとめる	時間数	2
3週目			
授業学修内容	【ワークショップー国際移民をめぐる現在】 ・国内外の国際移民現象を取り上げ、それらの共通点と異同を検討する		
授業外学修内容	国際移民をめぐるキーワードを調べ学習する	時間数	2
4週目			
授業学修内容	【プッシュ・プル理論】 ・ひとの移動を説明するミクロ理論を学習し、何が説明できるか、何が説明できないかを検討する		
授業外学修内容	プッシュ・プル理論に関するテキストを事前に読んでおく	時間数	2
5週目			
授業学修内容	【歴史構造アプローチ】 ・ひとの移動を説明するマクロ理論を学習し、何が説明できるか、何が説明できないかを検討する		
授業外学修内容	歴史構造アプローチに関するテキストを事前に読んでおく	時間数	2
6週目			
授業学修内容	【移民システム論、移民ネットワーク論】 ・ひとの移動を説明するメゾ理論を学習し、何が説明できるか、何が説明できないかを検討する		
授業外学修内容	移民システム論、移民ネットワーク論に関するテキストを事前に読んでおく	時間数	2
7週目			
授業学修内容	【ワークショップーひとの移動の理論で説明する】 ・ひとの移動を説明するさまざまな理論を用いて、現在起こっている国際移民現象を分析し、グループワークを通じて検討と考察を行う		
授業外学修内容	国際移民に関する最近の新聞記事を選び、ひとの移動の理論を用いて分析する	時間数	2
8週目			
授業学修内容	【国家のゲート論】 ・ひとの移動を促進したり規制したりする国家の役割を理解する		

授業外学修内容	国家のゲート論に関するテキストを事前に読んでおく	時間数	2
9週目			
授業学修内容	【増大する国際移民と世界に増殖する「壁」／「橋」】 ・世界規模で起こっているひとの移動と「壁」／「橋」について、映像資料から考える		
授業外学修内容	「世界で増殖する壁」に関する資料を事前に読んでおく	時間数	2
10週目			
授業学修内容	【ひとの移動と「壁」／「橋」をめぐるワークショップー人権のアポリアとはなにか】 ・移動するひとの人権と国家のセキュリティのジレンマに関して、映像資料をめぐるグループワークで議論する		
授業外学修内容	視聴した映像資料に関する調べ学習を行う	時間数	2
11週目			
授業学修内容	【日本社会の内なる国際化】 ・戦後日本の外国人政策をレクチャーと映像資料で理解する		
授業外学修内容	日本の外国人政策に関するテキストの一部を事前に読んでおく	時間数	2
12週目			
授業学修内容	【日本社会の内なる国際化②】 ・日本社会で生活する日系南米人のルーツ(routes and roots)について、レクチャーと映像資料から検討する		
授業外学修内容	日系南米人に関するテキストの一部を事前に読んでおく	時間数	2
13週目			
授業学修内容	【日本社会の内なる国際化③】 ・近代日本と在日コリアンをめぐる歴史構造を講義と映像資料から理解する		
授業外学修内容	在日コリアンに関するテキストの一部を事前に読んでおく	時間数	2
14週目			
授業学修内容	【日本社会の内なる国際化④】 ・日本の外国人政策と地域の多文化共生について、定住インドシナ難民の現実から理解する		
授業外学修内容	定住インドシナ難民に関するテキストの一部を事前に読んでおく	時間数	2
15週目			
授業学修内容	【まとめ】		
授業外学修内容	・学習内容をふりかえり、これまでの知見と論点をまとめ、期末課題レポートの準備をする	時間数	2
上記の授業外学修時間の合計		30	
その他に必要な自習時間		60	

Number	INR-2-008-k	Subject	Transnational and Global Migration		
Name	鈴木 鉄忠 (Suzuki Tetsutada)	Year and Semester	Second semester for 2020	Credits	2
Course outline	<p>Transnational and Global immigration studies have been asked about "why people move", "how to settle people", "what will regulate and promote people's movement and inhabitation". In this course, we will focus on the theme of <movement of people and "wall"/ "bridge">. We will consider theories and cases surrounding immigration phenomenon and various "walls" and "bridges" that restrict or promote the movement and establishment of people across (physical/ institutional/ mental) borders.</p> <p>First of all, we will introduce basic definitions and issues concerning international immigration, and representative theories explaining migration of people across borders (push-pull factors, historical structure approach, immigration system theory, immigration network theory, National gate</p>				

theory).

In the second half of the class, we will examine the current situation of international immigration that is occurring globally and the "wall" / "bridge" focusing on the border area. In addition, we will take up the international immigration phenomenon in Japanese society, especially considering the reality surrounding resident foreigners (Koreans in Japan, Indochina settled refugees, Nikkei Latin America).